

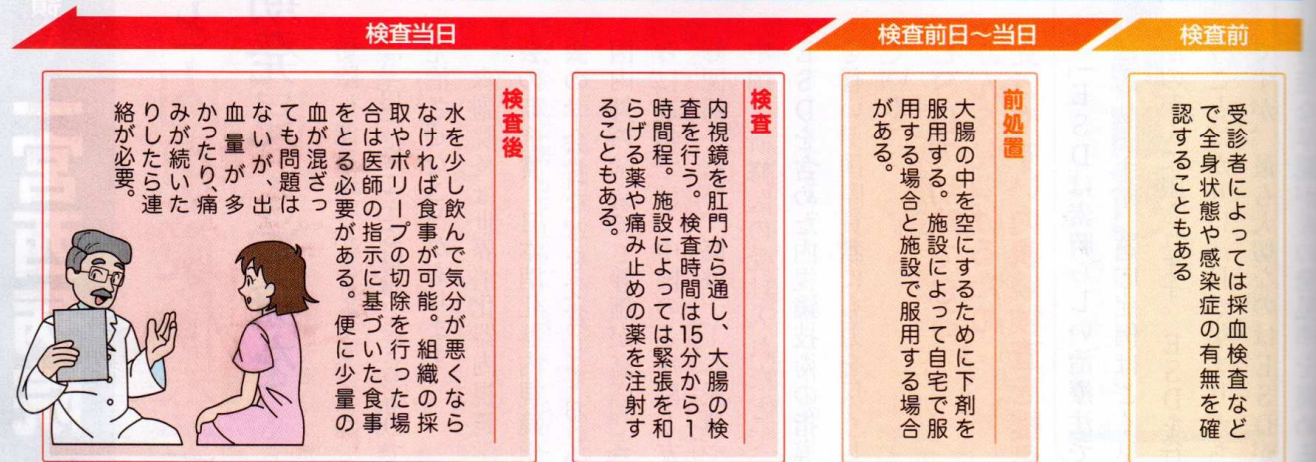
た場合はその場で切除することもできる。また、以前は内視鏡検査が困難と考えられていた小腸についても、錠剤程度の大きさのカメラを飲み込んで遠隔操作で記録するカプセル内視鏡や、尺取り虫の動きのように、内視鏡を小腸の深部へ進めていくダブルバルーン内視鏡で検査が可能になった。

大腸内視鏡検査は健診などで広く行われている、便中の血液の有無を調べる便潜血検査で陽性反応が出た際の精密検査として用いられる他、早期発見のために単独で受けるケースも近年では増加している。苦痛が伴うというイメージから検査を敬遠する人もいる現状ではあるが、その改善を目指して挿入法の改良や、鎮静剤を用いて眠っているような状態にする静脈内鎮静法など、苦痛を抑えるための工夫が為されてきた。

現在ではさまざまな内視鏡検査によってがんの早期発見を目指した検査が行われるようになってきた。ただ、検査を高い精度かつ少ない負担で行うためには、当然ながら医師の経験や技術も重要になる。日本消化器内視鏡学会によって認定される消化器内視鏡専門医のいる医療機関を受診するなど、実績ある医師のもとで定期的な検査を受けていきたい。

文/鈴木健太

大腸内視鏡検査の一般的な流れ



「意識下鎮静法」による  
優しい内視鏡検査と多岐にわたる治療法



理事長 前島 静頭  
日本外科学会認定  
外科専門医



副院長 兼子 順  
日本外科学会認定  
外科専門医  
日本消化器内視鏡学会認定  
消化器内視鏡専門医

一般的に「内視鏡検査は辛い検査だ」と敬遠される方も少なくありません。いい診断・いい治療を行っても検査を受けていただかなくては意味がありません。当院では開設以来27年にわたり「意識下鎮静法」による比較的楽に受けられる方法を採用し、検査を負担なく継続している実績があります。「意識下鎮静法」とは、鎮静剤や鎮痛剤を用いて楽に内視鏡検査を受けていただく方法です。実際とても楽というところで、近隣のみならず他都県からのリピーター患者様も大勢いらつしやいます。

当院の消化器内視鏡検査の特徴は、外科全員が検査に携わっている点です。内視鏡治療（粘膜切除・粘膜下層剥離術・ステント留置・総胆管結石採石など）から腹腔鏡手術、開腹手術に至るまで、患者様にとって治療の選択肢が広がり、かつ短期間での治療法の連携が可能となることから、より侵襲の少ない治療や入院期間の短縮などのメリットがあります。

当院では、最新の内視鏡装置や器具を用いて診断・治療を行うとともに、医師を中心に職員が積極的に学会で発表や研修を行っており、患者様に安心して最新の医療をご提供できるよう日々精進しております。



**医療法人 顕正会 蓮田病院**

【診療科目】外科、内科、消化器外科、胃腸外科、肛門外科ほか

【診療時間】9:00～12:00 / 14:00～17:00  
(急患は24時間随時受付)

【休診日】日・祝

〒349-0131 埼玉県蓮田市根金1662-1  
TEL.048-766-8111 FAX.048-766-8110  
<http://www.hasuda-hp.or.jp>